

世界につながる教室へ～先生だからできること～

33

所 属	可児市立広見小学校		実践者	山本 実穂
対 象	岐阜県内の先生方（希望者 10 名）		実践日	2023 年 8 月 3 日
実践の場	国際理解教育講座(岐阜県教育委員会)		時間数	5 時間
ねらい	国際理解教育に興味をもつ先生が、さらに広い視野で異文化を理解するとともに、多文化共生教育の指導力を高め、校内での実践へとつなげる。			
実践内容	時間	プログラム		備 考
	10分	① アイスブレイク「素敵なハート」 多くの人と話す機会を作り、場を和ませる。		小さな紙・ペン
	15分	② アイスブレイク「名刺で自己紹介」 自分のことを振り返り、グループの仲間のことを知る。		A4用紙
	15分	③ アイスブレイク「同じところ・違うところ」 仲間の同質性・多様性を理解し、その違いを楽しむ。		半模造紙
	20分	④ 家族自慢をしよう【フォトランゲージ】【ロールプレイ】 多様な国や人と肯定的に出会い、異なるものへの関心をもつ		家族の食卓
	10分	⑤ 世界の多様性と身のまわりの多様性【プレスト（リスト）】 世界には多くの多様性があり、同じように学校にも様々な多様性が存在することに気づく。		半模造紙
	12分	⑥ 多様性が認められないと・・・【派生図】 多様性が認められない学校でどんなことが起こるかを考える。		半模造紙
	20分	⑦ 多数派少数派ゲーム【シミュレーション】（やってみましょう）		シール
	35分	⑧ 実践紹介・協力隊の経験談 国際理解教育の実践事例や協力隊の経験から学ぶ。		協力隊経験のある先生・JICA 推進員の方
	25分	⑨ わたしの国際理解教育【KJ 法】 自校の状況を把握し、国際理解教育を自分ごととして捉える。		半模造紙
	25分	⑩ 解決のための手立てを考える。【対比表】 同じ立場の人同士で、国際理解教育の実践するためにできることを考え、行動計画を立てるための参考にする。		半模造紙
	15分	⑪ 自分の立場から、行動計画を書く。 国際理解教育を実践するための自らの計画を作成し、実現へのきっかけとする。		A4 用紙
成 果	国際理解教育の特徴である「参加型で学ぶ」ということの良さを体感しながら、多文化共生について知っていただくことができた。国際理解教育に興味をもつ先生方が、実践に向けて一歩踏み出すためのきっかけを作ることができたと思う。			
課 題	プログラムの内容を詰め込みすぎたことで、参加者が負担を感じる場面があった。 もっと身近で簡単に取り入れやすい実践例を紹介することができたら、初めて実戦に挑戦する先生方も真似しやすかったと思う。			
備 考	今回は、岐阜県内の小・中・高の先生方を対象とした選択型研修で実践をさせていただきました。岐阜県で国際理解教育に携わる先生が一人でも増えるように、これから自分にもできることを実践していきたい。			